

韓国江原道経済交流視察概要報告

直前会長 堀田 収



日本鳥取県中小企業人招
2009.10.10-14

本事業は、我々の親会である鳥取県中小企業団体中央会の主催で、鳥取県から後援して頂いており、中央会の異業種交流、中小企業団体経済交流推進事業である。

今まさに経済のグローバル化が進展し、国際的な大競争時代のさなか、我々中小企業においても、国際化対応の一環として工場の海外進出、また、委託生産等々様々な対応に迫られており、鳥取県中小企業団体中央会も、過去、中国、韓国、ベトナム、タイ等々の海外経済視察団を派遣してきたが、本格的な環日本海交流を中小企業ベースでの進展に結びつける為、平成10年度から3カ年計画で韓国江原道異業種交流連合会と「中小企業団体経済交流推進事業」を行っている。

本年度は10月10日から10月12日までの日程で、韓国江原道春川を訪問した。鳥取県からは、清水団長を中心に団員21名、事務局3名、旅行者1名の総員25名が参加し、鳥取県中小企業青年中央会からは奥森県会長はじめ9名が参加した。

今回の訪問団のメイン事業は、10月10日に開催された江原道異業種交流連合会主催による「国際交流の夕べ」並びに「交流食事会」への出席であった。120名が出席して23テーブルに分かれて交流し、江原道異業種交流連合会崔善充会長より歓迎の挨拶があり、つづいて日本からは清水団長の答礼の挨拶があり、開会した。その後、成功事例発表に移り、まず、江原道側からは、(株)サンファ油業金社長、鳥取県からは清水団長が中小企業組合の共同事業の取り組みを紹介した。引き続き鳥取県中小企業青年中央会奥森会長より「鳥取県内産業状況」、江原道側からは、「江原道の概要」についての発表があり、「交流食事会」では、和やかな中にも熱心に交流会が進行した。翌11日には、医療機器メーカーの(株)メディソン洪川工場、及び国内ビールメーカー最大手のハイボール(株)を視察したのち、ソウルへ移動。

3日間の訪問は、経済ベースを含めた交流視察として大変有意義なものであった。

What's IT? 第3回

今回はIT革命と地球環境問題について考えてみましょう。

IT革命は地球環境問題へも大きな影響を与えていると言われています。1997年12月京都で開催された地球温暖化防止会議(COP3)では2000年以降の温室効果ガス排出量の数値目標が国際的に取り決められました。自動車交通を大きく変えるITS(高度道路交通システム)は、渋滞を緩和させるなど自動車の排気ガスを大幅に抑え、2010年には110万トンの減少が見込まれています。

また、音楽のオンライン配信が進めば、CD-ROMやパッケージなどが不要になるし、SOHO(在宅勤務)が進めば、人の移動が減り、無理な輸送力増強も不要になると言われます。

しかし一方で、パソコンなど新製品が次々と生産され、商品のライフサイクルがどんどん短くなって来ており、パソコンの廃品が急増しています。携帯電話なども同様の問題を抱えています。

IT革命はライフスタイルや社会システムを大きく変えようとしています。その恩恵を存分に享受するためには、社会全体の対応が不可欠と言えるでしょう。

連絡事項

所属企業変更
newカマーズ委員会 山本良文会員の所属企業が変更になりました。

(旧)：江尾砕石工業(有)
(新)：(株)はりまや 常務取締役
会社住所：米子市権町1-165
会社TEL. (0859) 34-0290 FAX. (0859) 34-0360

11月例会案内

とき 平成12年11月15日(水)
ところ ホテルサンルート米子
講師 (株)サテライトコミュニケーションズネットワーク
代表取締役社長 高橋孝之氏
演題 「地方からの情報発信への挑戦」

11月役員会報告

11月定例役員会が平成12年11月1日(水)、米子食品会館に於て開催された。当日の主な議題は、次の通りです。

- (1) 11、12月例会開催の件
- (2) 団体中央会45周年記念事業等参加の件
- (3) 県経営研修会参加の件
- (4) その他

※尚、詳細については、委員長までご照会下さい。

編集後記

今回の大地震にはびっくりしました。会員の中にも被害があったのではないのでしょうか。

私は震災から3日間、仕事で被災地を取材して回りました。山間地の集落では、建物や道路、そして水道管も被害を受け、惨憺たる状況でした。その中でほととさせられたのはボランティアの姿でした。雨の中、神戸や鳥根の若者たちが懸命に屋根にシートがけをしていました。震災で家は壊れたけれど、温かい心の繋がりが生まれていました。

聞いてごしない Part 14

最近の出来事で印象深いものは、シドニーオリンピック、西部地震、最近始めたインターネットなど色々ありますが、一つずつ感想を述べます。

まず、シドニーオリンピックTV観戦の中でも女子マラソン優勝の高橋尚子のパワーに久しぶりに感動しました。最初から最後まで見たが追いつくシモンを振り切ってゴールする姿はまるで仕事に追われまくる自分を見ているようだった。(余裕がなく気がでない)

柔道男子100キロ超級篠原選手決勝敗退はメチャクチャ口惜しいと思う、又自分も経験したことがあるがとても理不尽なことがまかり通る世の中じけずにアテネでは内股すかしで一本とってほしいものだ。(解説がはやし立て過ぎルールを知らない自分も口惜しくなった)

口惜しいといえば野球チーム選手ほとんどの選手が悔し涙を流していたが日本のリーグでは見たことが無い、よほど口惜しかったと思う。

オリンピックも終わる感動もうすれようとした矢先マグニチュード7.3震度6強の大地震にさすがの自分も腰が抜けて動かせませんでした。(情けない)

しかし地震のパワーにたいして人間の弱さ、いや強さを感じた。一瞬の揺れで人が何十年何百年と作り上げた家・道・町を壊してしまった、が人間のすごいところはそのあとである、二、三日も経てば主要な道路は復旧し民家の屋根には青いシートがかけられ早いところは、復旧作業にかかっていることだ。許せない人間も居る被災して困っている人に対して県外からやってきて甘い言葉(シートをサービスで掛けてあげますよ)で誘い挙句の果てに法外な見積請求、とんでもない商売人が居る。皆さん甘い言葉には、気を付けましょう。(朝日町の方でも同じような商売があるそうです)

最後に、最近始めたインターネットですが、まだ本当の素人でびくびくしながらクリックしています。先日某OBより返信せよのメールが入り返信するのに2時間も掛かり別の約束を忘れてしまった、今度原稿の依頼があればメールで送るようにしたいものだ。 (人生で最大の揺れを感じた男)



発行人：鳥取県西部中小企業青年中央会 会長 土井一朗 編集責任者 浜 義徳 印刷所 東京印刷株

10月6日に発生しました鳥取県西部地震にて被災された皆様には、心よりお見舞い申し上げます。

参加して参りました！第52回中小企業団体全国大会



10月18日(曇り)米子空港に集合して出発した。羽田空港にて、東部・中部のメンバーと落ち合い東北新幹線にて目的地を目指した。車内での話題は、やはり「鳥取県西部地震」に集中した。東・中部の会長も「会員みんな心配しており義援金を送ろうとの話も持ち上がってます。」とのこと。2年前「中央会是一つ」と連呼された米村元県会長の顔がふと思い浮かんだ。

新幹線やまびこ号は順調にひた走り仙台へ到着。道中の疲れも何のその、参加者23名全員が遠藤県出向厳選の店に会場を移して結団式を行った。「とにかく大会には時間通りのぞむように。」との奥森県会長のあいさつが終わると一斉に和気藹々と懇親会が始まった。なるほどうまい料理にみな満足した様子。

10月19日(晴れ)何という小春日和の素晴らしい天気か！我が大山の美しさに勝るとも劣らない岩手山がいつそう雄大にそびえ立っている。その麓に建つ岩手産業文化センターに無事到着。「銀河に翔け！人・知恵・組織の輪で」をキャッチフレーズに開会した。やはりここでも、「IT革命」この言葉を耳にすることが多かった。

東京に戻って解散式。そして三三五五となった。県会長・会長ご苦労様でした。段取りの方の遠藤県出向そして我が儘なおじさん達の面倒を一生懸命みてくれた日本海トラベルの山本さん大変でした。そして快く参加いただきました会員の皆さんありがとうございました。私自身も、参加しなければ味わえないひとときを再び過ごすことが出来ました。みなさんに感謝感謝。

10月例会報告

「インターネットマーケティング」

10月例会は16日、役員担当でホテルサンルート米子にて開催された。釜田委員長の司会のもと土井会長は西部地震の被害を見舞われ、こういう時こそ異業種の連携で乗り切りたいと「クライシス管理とその対処法」について話された。続く会長タイムではハンサム10月号掲載の「志と実学①」について解説された。

演題：一部「インターネットマーケティング」
二部「インターネットマーケティング成功方式7カ条」

講師：インターネットビジネス研究所 理事長 杉山勝行氏
インターネットを見慣れていない会員には、難解な内容であったが企業にとってホームページにどの部分を役割として持たせるか？その事例の紹介であった。商品紹介のパンフ代わりなのか、DMなのか、通販窓口なのか、コンセプトをしっかり持って内容を絞り込むことが大事である。

「インターネットマーケティングの最前線」

デジタル通信が飛躍的に発展する現在、全世界を結ぶインターネットは地方のハンディがない貴重な情報収集手段であり、ビジネスツールとして大きく成長し続けている。政府の呼びかけによる「日本版IT(Information Technology)革命」によってさらに加速することが期待されている。

インターネットビジネスでの成功の鍵は、全て創意工夫と信用の獲得が重要であり、大企業だけでなく中小企業でも信販会社等との取引を訴えることや堅実な商品から成功している傘の「みや竹」の例は大変興味深い。インターネットビジネスは商取引だけでなく、宣伝広告費の削減・キャッチフレーズの開発・消費者のニーズにあった情報提供からの自社製品のイメージアップ・メールによる相談など間接的な手段としても多く用いられている。



最後に中央会掲載のホームページの診断を戴き、1)誰に向けてのものなのか、2)利用者の思考、3)配置、4)配色(特に癒し色)を検討することをご助言戴いた。

地方でも大都市圏と対等になるインターネットビジネスを未知の世界と捉えるのではなく、どのように活用するのかを考える貴重な講演であった。

「インターネットマーケティング成功方式7カ条」

- ①バイラルマーケティングの活用
- ②アフィリエイトマーケティングの活用
- ③パーミッションマーケティングの活用
- ④懸賞コーナーの活用
- ⑤メールマガジンの活用
- ⑥リンク機能の活用
- ⑦商品企画に活用 の7項目である。

ホテルへの率直な感想を公開し、改善を載せて予約を増やしているページ。今まで平均1ヵ月半掛かっていた販売が10分で売れることもあった中古ディーラー。広告宣伝を行わずページだけの展開で5万本売れたウイスキー...などなど事例を紹介しながらポイントを抑えた解説は興味深かった。現在当会にリンクされている会員ページは22社、1個人、今後の変貌振りに注目したい。

10月度委員会報告

newカマーズ委員会 実学委員会

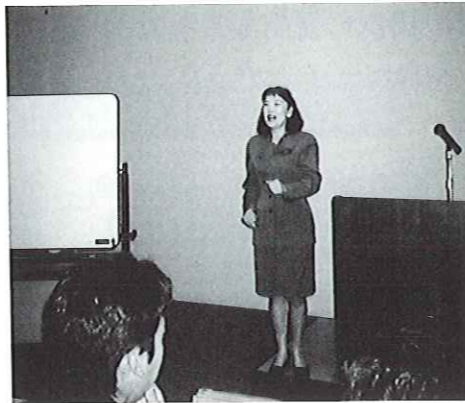
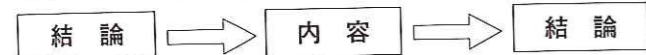
平成12年10月23日(月) 於: ホールサムインかいけ 出席者/newカマーズ委員会13名 実学委員会10名 オープン参加27名
 今委員会は、newカマーズ委員会と実学委員会の合同で「美しい日本語」を考えようという主旨で委員会をオープン開催した。外部講師として(株) インタープロス代表取締役ビジネスコーディネーターの竹上順子さんを招き、「敬語を見直そう〜ビジネスにも役立つ言葉使い〜」という演題で、終始、にこやかに話を進められた。オープン委員会という事で会場には、中央会メンバーの外、うら若い女性の姿も多く、講師の話しにも熱心にメモを取る姿が散見された。

講師はプライベートでビジネスシーンで、対面している相手や状況で言葉の使い分けは社会人として常識中の常識であると結論付けられ、特にビジネスにおいては、初期対応の大切さを強調され、以下の3点に絞って講演された。

- ①基本は敬語〜大丈夫? あなたの言葉〜
 - 尊敬語……相手の話を尊重して、自分の話を丁寧にする。
 - 謙譲語……相手を尊敬する気持ちを表す。
 - 丁寧語……へり下って、尊敬の意味を示す。

- ②クッション言葉で、初対面も好印象
 クッション言葉とは、ことばの間や前に入れて全体を和らげる役目をします。
 ・お手数ですが ・恐れ入りますが ・申し訳ございませんが

- ③ホールパート法で朝礼もバッチリ伝達



言葉使いは社内、社外を通じて、その人のネットワークを表すものであり、ビジネスマナーとは全員に役に立つ原理、原則である。言葉のキャッチボールの達人となり、仕事、人間関係の幅を最大に広げて頂きたいと締めくくられた。

IT革命と言われる現代も基本は1対1の生きた言葉のやり取りが、個人、ひいては会社の命運を分けるとの印象を強くし、自戒の念を持ち、考えさせられた講演であった。

情報メディア委員会

平成12年10月13日(金) 於: NIT米子支社 出席者/10名

今委員会はNTT米子支店佐々木氏を講師に「インターネットの現状と今後」をNTT米子支店にて開催された。ここで佐々木氏は、「インターネットの絶対性」として次の3項目を挙げている。

- 1. 時間の超越 2. 空間の超越 3. 人間の超越
 これは24時間情報交換が出来、全地球規模で受発信を可能にし、年齢・男女・職業・民族を問わない話であった。佐々木氏の講義の主体は、「デジタルデバインド (情報格差)」・「EDI (電子伝票交換)」であった。

デジタルデバインド
 国家間格差— 各国のインターネット・ホストコンピュータ数・利用人口・普及率による格差
 国内における格差 — 都市圏と地方圏・社会的弱者等における格差
 個人間格差— 世代間、職業間における格差

このデジタルデバインドとはパソコンやインターネットの知識や習熟度の違いによって、情報収集能力に差が付き、生活や収入に格差が生じることで日本は、極端なデジタルデバインドは起きないとされているが、2000年3月末時点においてパソコンの世帯普及率は、約38%としてNTT i モードの契約者数は2000年4月時点で600万人を突破しており、日本がインターネット大国になる日も近いが、その一方でビジネス・シーンでは情報・メディアに劣る中高年層が企業のIT化の妨げになる可能性を指摘していた。

次にEDI (Electronic Date Interchange=電子伝票交換) 企業間のコンピューターを通信回線で結び、商取引データなどをやり取りする効果的でスピーディな電子取引システムである。

結論として企業が電子商取引を利用してビジネスチャンスを活かしていく時代がくるであろうし、中小企業でもこうしたビジネスチャンスはたくさんあり活かしていかなければならないというお話でした。

近い将来電子商取引を中心とした動きが出てくることで、今現在企業の行っていることはアナログなことと思う流れに乗り遅れないように知識を養わなければならないという思いがした。

広報委員会

平成12年10月4日(水) 於: 米子食品会館 出席者/11名

1. 11月号ハンサム企画、紙面割
 今回はC班5名が企画と紙面割を担当し、その中で取材を行う委員会を参加委員全員で検討した。

そしてインターネットの現状を研修される情報メディアか、言葉の使い方大切さを研修される実学、ニューカマーズ合同かで意見を集約し、結果言葉の使い方の大切さを研修される実学、ニューカマーズ合同委員会と決定した。

紙面割は、11月号原案紙面を元に第1面から第4面まで順次担当者、字数、提出期日を決めていた。

2. 9月担当例会の反省
 出席者が100名を越え、講師先生の本販売も完売という結果であり成功であったという評価をいただいた。しかし5分前の着席がなかった等の反省点もあった。

政治・地域ビジョン委員会

平成12年10月24日(火) 於: ホールサムインかいけ 出席者/11名

・担当例会の打合せ
 講演講師: (株)サテライトコミュニケーションズネットワーク 代表取締役社長 高橋孝之氏
 演題は「地方からの情報発信への挑戦」

主な講演内容は、志と実学のスローガンを生かし、高橋社長には今までの地域企業人としての経緯と今後この地域でどの様な発想で企業の一員として取り組んでいけば良いかなど、社長のお考えを講演していただき、その後、30分間の間、当委員会の部門別での質疑を、講師先生にぶつけてみようという試みの例会です。

志委員会

平成12年10月10日(火) 於: ホールサムインかいけ 出席者/8名

この度の委員会は、鳥取県西部地震による影響の為、参加人数が少なく役員報告会のみ活動となった。

再度委員会活動を予定したが、日々の調整がつかなかった。11月につきましては、新たな気持ちで全員参加のもとに、委員会活動に取り組む。

21地球委員会

平成12年10月10日(火) 於: 大連 出席者/12名

今回の委員会は、「自然との共生フロー」と題し、「建物」を中心として自然に係わる6つの要素について比較検討した。その6つの要素とは、「水(雨水、海、川等)」「空気(風、香り等)」「太陽(熱、光等)」「鉱物(土、砂、石)」「土地(平野、山間、海岸)」「動植物(木、竹、家畜等)」である。

冒頭、委員長から「自然そのものとの共生は不可能に近い。我々が考えていくことは、あくまで、自然状況との共生・調和を図ることである。」との説明があった。甚大な被害を出した鳥取県西部地震直後の言葉だけに妙な説得力があった。

フリートーク形式での進行は、モデルケースを太陽光発電ならびに旧加茂川に据えることにより様々な疑問、意見、提案を吸い上げることができた。それら全てをまとめ、以下の提言となった。

「便利さの提供・追及」を免罪符とした生産活動および消費活動は環境破壊や環境汚染といった深刻な事態を招くこととなった。今後、21世紀に向けて我々ひとりひとりがその反省にたち再生可能な身近な「自然」を生活の場に取り込むことにより、現代人のキーワード「やすらぎ、癒し」が具現できるはずである。つまり、コスト意識だけでは到底はかることのできない精神的豊かさといったものは、実は「不便さ」の中にこそ存在するものなのではないだろうか。

総務委員会

平成12年10月3日(火) 於: 大連 出席者/12名

1. 県経営研修会
 当日の懇親会で行うアトラクションについて検討した。東中西部で競い合う様なゲームで、ユニークな案が沢山出されたが、その中から2つ程に絞り用意することにした。

2. OB交流会
 前回の委員会より議題になっているOB交流会について、前回提出されたボウリング、ゴルフ、バーベキュー、ソフトの案に付いて行う時期等を考慮してどれが一番適当かを話し合った。その中でも、ボウリングが時期的に早春という気候を考えると、一番適当で、参加もし易いのではないかという意見が多かった。ゴルフについても出来るかどうか、班分けをし、ボウリングと平行して原案を作り、提案して行く方法が良いのではないかと意見も出て、次回以降さらに詰めていく事となった。いざいざにしても、会費や参加人数等様々な事をこれから決めて行かなければならないので、これからの大変である。

【お詫びと訂正】
 ハンサムNo.156にて委員会報告に誤りがありましたので訂正してお詫び申し上げます。

実学委員会 9月委員会 講師 赤松昭二氏
 →松浪昭二(松浪会計事務所所長)

水鳥公園 清掃美化参加

去る平成12年9月24日(日)午前9時半より、米子水鳥公園において小千鳥(コチドリ)の産卵場所となる砂礫地復元のための除草作業をメインとした第3回米子水鳥公園清掃美化活動が行われました。

当会からは景副会長を団長に、21地球委員会の浜・花園・後藤の各会員が参加しました。

もやしの親分のような雑草の根は放射状の広がりを見せており、果てしない作業を予感させるものでしたが、一度コツを掴むとその作業はスムーズなものとなりました。10時半の終了時間の頃には中央会の持ち場は「黒いじゅうたん」となっていました。

「もうちょっとしやりましたなあ。」そんな会話が会員同士で交わされた反面、他の参加者からは「ああえらかった。やっと終わったわ。」という声も聞こえました。このような反応の違いはどこからくるのでしょうか?それは、一言で言えば「作業内容の不理解」、「作業目標の不設定」といったところでしょうか?



今年度議論を重ねられている、当会の皆生トリアスロンへの取り組み方も同様の問題点を抱えているようにおもいます。仮に自発的に参加したとしても上記「作業内容の不理解」や「作業目標の不設定」があればモチベーションは半減するでしょう。たとえ参加するキッカケが半強制的なものであったとしても、自らが高次の目標を設定することができれば非営利的なもの、つまりボランティア活動を有意義なものへと姿をかえることは十分可能だと考えます。

今回の清掃美化活動は、21世紀のトリアスロンの運営の在り方を暗示してくれたものであったとおもいます。会員個々の更なる意識改革を望む次第であります。

(文責: 21地球委員会 後藤公平)

第7回 中海テレビ放送杯 野球大会

平成12年10月22日 米子市民球場にて「第7回中海テレビ放送杯野球大会」の開会式が行われた。今大会、我が鳥取県西部中小企業青年中央会野球部は初出場にもかかわらず、18名という参加チーム中最大の人数で開会式に望んだ。その威風堂々たる勇姿は今大会でどのような風を巻き起こすのだろうか楽しみであり、願ってやまない。

そして平成12年10月29日(日) 西伯カントリーパークにて、決して良好とは言えない天候の中、岩田監督率いる我がTSC野球部員、キャプテン徳中、大田、門脇(幸)浜(徳)安部、中澤、石指、湯原、尼子、松下、中原、高田、後藤(公)、角田、岡本、武海、金居、中島(正)、潮、足立(徹)の精鋭20名、初の公式試合が始まった。相手チームは甲子園経験のある米子東高校OBの面々、若手チームである。緊張に包まれながら試合開始のサイレンが鳴り響き、スターティングメンバーが守備位置につく。1回、2回は攻防が続き、得点無。むかえた3回裏TSCの攻撃、死球、四球とランナー1・2塁、犠牲フライで進塁。ここで猛打のスイッチがON。4本のヒットにより4得点。点を得てからのTSCは強く、相手チームに攻撃を許さない。むかえた最終回、1点を与えただけで初勝利をおさめた。まさに「勝つ」という思いと気迫で獲た勝利である。こうなれば「優勝」という思いと気迫で「優勝」をと期待したい。

